



平成23年2月9日
国土交通省鉄道局

「第1回 ホームドアの整備促進等に関する検討会」の結果について

平成23年2月9日（水）に開催されました標記会議について、下記のとおり、その結果の概要をお知らせいたします。

記

1. 出席者 (別 添)
2. 議 題
 1. 「ホームドアの整備促進等に関する検討会」の設置について
 2. ホームドア等の検討状況、整備計画に関する国土交通省の調査結果について
 3. ホームドア等に関する各事業者ごとの検討状況、整備計画について
3. 結果の概要
 1. 国土交通省より整備計画に関する調査の結果について報告された。(別 添)
 2. 各鉄道事業者より、ホームドア等の検討状況、整備計画について報告された。
 3. これらを基に、総合的な転落事故防止策について、引き続き議論を続けていくことが確認された。

【連絡先】

国土交通省鉄道局鉄道業務政策課 担当 菅原・尾坂(内 40603・40619)
技術企画課 担当 川口・神谷(内 40702・40732)
03-5253-8542、8546 (直通)

第1回 ホームドアの整備促進等に関する検討会

平成23年2月9日（水）
13時00分～14時30分
国土交通省10階共用会議室

議事次第

1. 「ホームドアの整備促進等に関する検討会」の設置について
2. ホームドア等の検討状況、整備計画に関する国土交通省の調査結果について
3. ホームドア等に関する各事業者ごとの検討状況、整備計画について
4. 意見交換

【配布資料】

- ・ 議事次第、出席者名簿、配席図
- ・ 資料1 「ホームドアの整備促進等に関する検討会」の設置について
- ・ 資料2 平成23年度以降のホームドアの整備計画
- ・ 資料3 ホームドアの設置に向けた課題等
- ・ 資料4 非常停止押ボタン等の整備計画について

「ホームドアの整備促進等に関する検討会」出席者名簿

北海道旅客鉄道(株)	豊田 誠	総合企画本部	専任部長
	(代理出席：鈴木 理夫)	総合企画本部	経営企画部主幹
	宮越 宏幸	鉄道事業本部	安全推進部長
東日本旅客鉄道(株)	高橋 眞	総合企画本部	投資計画部長
	西野 史尚	鉄道事業本部	安全企画部長
東海旅客鉄道(株)	山口 孝夫	総合企画本部	投資計画部長
	勝治 秀行	安全対策部長	
東武鉄道(株)	堀越 昭彦	鉄道事業本部	計画管理部長
	小野里 一彦	鉄道事業本部	工務部長
西武鉄道(株)	中村 仁	鉄道本部	計画管理部長
	藤井 高明	鉄道本部	工務部長
京成電鉄(株)	加藤 雅人	鉄道本部	計画管理部長
	竹淵 誠一	鉄道本部	施設部長
京王電鉄(株)	高橋 泰三	鉄道事業本部	計画管理部長
	(代理出席：橋木 正明)	計画管理部	計画担当課長
	寺田 雄一郎	鉄道事業本部	工務部長
	(代理出席：川崎 津良)	工務部	土木課長
小田急電鉄(株)	小柳 淳	交通サービス事業本部	交通企画部長
	長野 真司	交通サービス事業本部	安全・技術部長
東京急行電鉄(株)	今成 孝雄	鉄道事業本部	副事業本部長
	島村 祐司	鉄道事業本部	事業統括部統括部長
京浜急行電鉄(株)	浦辺 和夫	鉄道本部	計画営業部長
	道平 隆	鉄道本部	施設部長
相模鉄道(株)	池田 厚二郎	経営管理部長	
	古瀬 円	プロジェクト推進部長	
仙台市交通局	櫻宿 守	高速電車部長	
	(代理出席：早坂 利秋)	高速電車部	施設課長
東京地下鉄(株)	山村 明義	鉄道本部	鉄道統括部長
	尾原 亘	鉄道本部	電気部長
東京都交通局	小泉 健	総務部	企画担当部長
	高橋 栄二	総務部	技術調整担当課長
横浜市交通局	伊佐見 孝夫	技術管理部長・安全管理担当部長	

(敬称略)

「ホームドアの整備促進等に関する検討会」の設置について

1. 趣旨

昨今、駅のホームからの転落事故、列車との接触事故が多発しており、ホームドア等、転落事故の防止に効果の高い対策の必要性が高まっていることを踏まえ、各鉄道事業者の間で知見を情報交換・共有し、ホームドアの整備等、転落防止対策の推進を図る。

2. 構成員

別紙参照

※ このほか、必要に応じてホームドア設置の知見を有する鉄道事業者、利用者、学識経験者等に対するヒアリングを行う。

3. 検討内容

- ・ ホームドアの整備・運用で生じた課題とその解決策についての情報の共有化（設置における技術的課題の解決策、低コスト化、列車遅延対策等の先進的事例の紹介等）
- ・ 整備促進方策の検討
- ・ その他の転落防止対策の検討

等

4. 検討スケジュール

概ね月に1回程度開催し、夏頃を目途に中間とりまとめを目指す

「ホームドアの整備促進等に関する検討会」名簿

北海道旅客鉄道(株)	豊田 誠	総合企画本部	専任部長
	宮越 宏幸	鉄道事業本部	安全推進部長
東日本旅客鉄道(株)	高橋 眞	総合企画本部	投資計画部長
	西野 史尚	鉄道事業本部	安全企画部長
東海旅客鉄道(株)	山口 孝夫	総合企画本部	投資計画部長
	勝治 秀行	安全対策部長	
東武鉄道(株)	堀越 昭彦	鉄道事業本部	計画管理部長
	小野里 一彦	鉄道事業本部	工務部長
西武鉄道(株)	中村 仁	鉄道本部	計画管理部長
	藤井 高明	鉄道本部	工務部長
京成電鉄(株)	加藤 雅人	鉄道本部	計画管理部長
	竹淵 誠一	鉄道本部	施設部長
京王電鉄(株)	高橋 泰三	鉄道事業本部	計画管理部長
	寺田 雄一郎	鉄道事業本部	工務部長
小田急電鉄(株)	小柳 淳	交通サービス事業本部	交通企画部長
	長野 真司	交通サービス事業本部	安全・技術部長
東京急行電鉄(株)	今成 孝雄	鉄道事業本部	副事業本部長
	島村 祐司	鉄道事業本部	事業統括部統括部長
京浜急行電鉄(株)	浦辺 和夫	鉄道本部	計画営業部長
	道平 隆	鉄道本部	施設部長
相模鉄道(株)	池田 厚二郎	経営管理部長	
	古瀬 円	プロジェクト推進部長	
仙台市交通局	櫻宿 守	高速電車部長	
東京地下鉄(株)	山村 明義	鉄道本部	鉄道統括部長
	尾原 亘	鉄道本部	電気部長
東京都交通局	小泉 健	総務部	企画担当部長
	高橋 栄二	総務部	技術調整担当課長
横浜市交通局	伊佐見 孝夫	技術管理部長・安全管理担当部長	

平成23年度以降のホームドアの整備計画

鉄道事業者名	整備計画				H23年度以降の 設置予定駅数
	路線名	駅名	整備予定年次	備考	
北海道旅客鉄道	北海道新幹線	奥津軽※、木古内、 新函館※	～H27年度	新線建設 (整備主体の鉄道・運輸機構と協議中)	3駅
札幌市交通局	南北線	(全駅)	H21～25年度		16駅
	東豊線	(全駅)	H26～30年度		14駅
仙台市交通局	東西線	(全駅)	～H26年度	新線建設	13駅
東日本旅客鉄道	山手線	(全駅)	H20～29年度	恵比寿・目黒の2駅はH22年度に整備済み、駒込・大塚・大崎・池袋の4駅は工事着手済み、新大久保駅は可能な限り早急に工事着手	27駅
	北陸新幹線	飯山、上越※	～H26年度	新線建設 (整備主体の鉄道・運輸機構と協議中)	2駅
京王電鉄	京王線	新宿	H23～25年度		1駅
		調布、布田、国領	検討中	連続立体交差事業	3駅
小田急電鉄	小田原線	新宿	H23～24年度	4・5番ホーム	1駅
東京急行電鉄	大井町線	大井町	H23年度		1駅
	東横線	(全駅)	検討中		21駅
東京地下鉄	有楽町線	(全駅)	H22～24年度	地下鉄成増等9駅はH22年度までに整備予定	14駅
	銀座線	(全駅)	検討中		19駅
東京都交通局	大江戸線	(全駅)	H21～25年度		38駅
東京臨海高速鉄道	りんかい線	大井町	検討中		1駅
名古屋市交通局	桜通線	(全駅)	H21～23年度	中村区役所等11駅(新線建設4駅を含む)はH22年度に整備予定	10駅
	東山線	(全駅)	H23～27年度		22駅
	名城線・名港線	(全駅)	H28～32年度		34駅
西日本旅客鉄道	JR東西線	検討中	H23年度		1駅
	北陸新幹線	糸魚川、新黒部※、 富山、新高岡※、金沢	～H26年度	新線建設 (整備主体の鉄道・運輸機構と協議中)	5駅
大阪市交通局	長堀鶴見緑地線	(全駅)	H19～23年度	大正等16駅(大阪市内)はH22年度に整備予定	1駅
	千日前線	(全駅)	H21～26年度		14駅
	御堂筋線	(全駅)	H23～31年度		20駅
九州旅客鉄道	九州新幹線 (西九州ルート)	武雄温泉、嬉野温泉※、 新大村※、諫早	認可(H20年3月) から概ね10年程度	新線建設 (整備主体の鉄道・運輸機構と今後協議予定)	4駅
※印の駅名は仮称					計285駅

ホームドアの設置に向けた検討状況

(※鉄道事業者からの報告内容を抜粋)

○鉄道事業者において、以下の課題の解決に向けて検討中

【費用面】

- ・多額の整備費用、維持管理費用及び更新費用(国及び地方からの支援が不可欠)

【時間面】

- ・工事(地上設備及び車両)施工能力の制約により、整備可能な路線や駅が限定され、事業が長期化

【設備面】

- ・車両の長さ、ドア位置、ドア数の相違への対応(車両の更新が必要)
- ・ホーム上での通路幅員の確保、ホームドアを支える強度の確保(ホームそのものの大規模改良が必要)
- ・列車の定位置停止装置、ホームドアと車両ドアの連動装置の設置(地上設備及び車両いずれにもシステムが必要)

【サービス面】

- ・ホームドアの開閉に伴い停車時分が増加し、ラッシュ時等に列車の遅延が発生
- ・ホームが狭くなり、スムーズに移動できず混雑が悪化

【他社との協議】

- ・相互直通運転を行っている各社と規格の統一化や費用負担割合の協議が必要

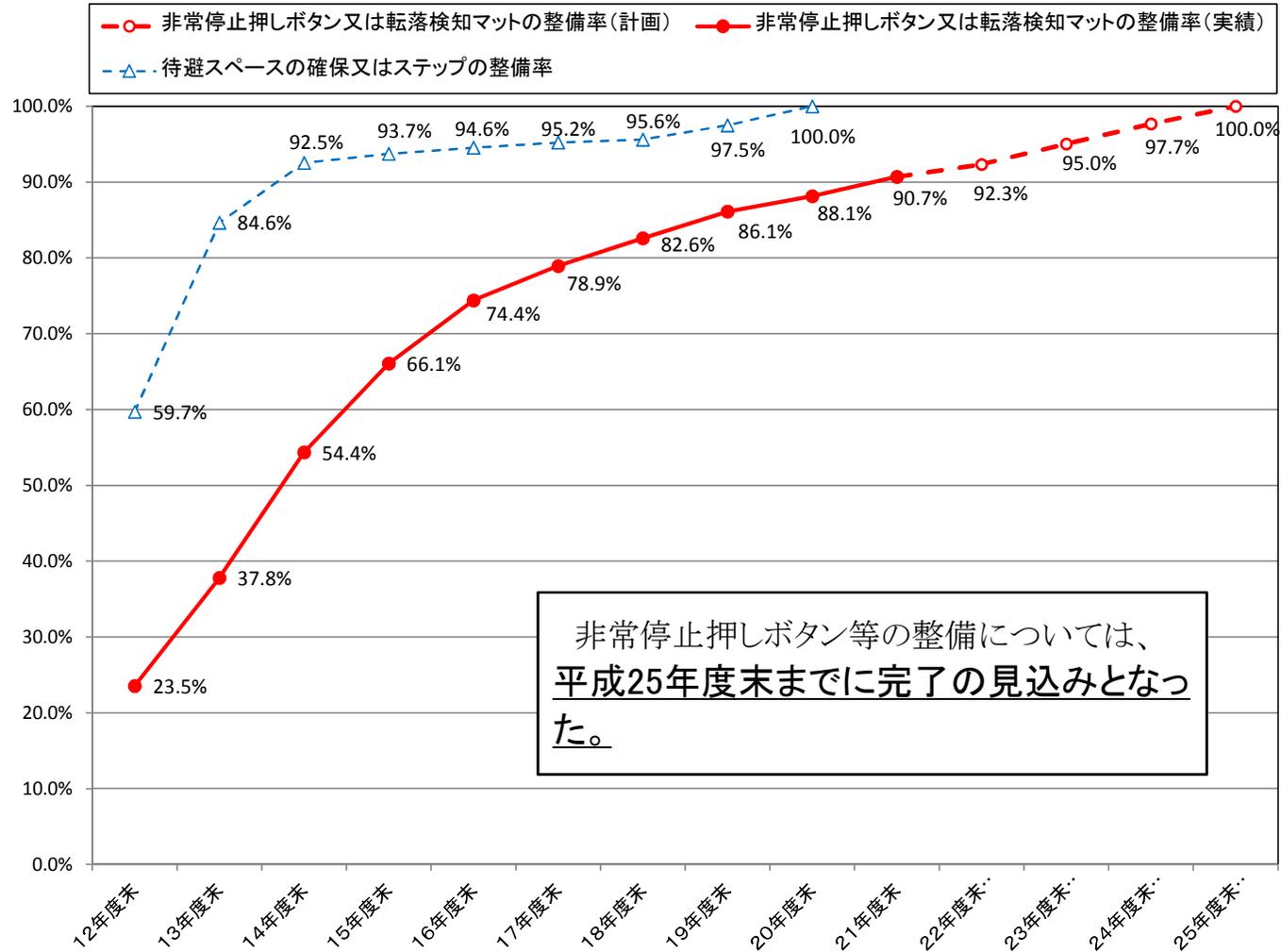
○鉄道事業者において、ホームドアの整備に代えて代替策を実施

- ・ホーム下の待避スペース、非常停止ボタン、点状ブロック等の整備を計画的に実施
- ・固定式ホーム柵の整備を計画的に実施
- ・ラッシュ時におけるホーム整理員の配置、列車接近装置や案内放送による注意喚起により対応

○以下の事情により、ホームドアの検討に至っていない

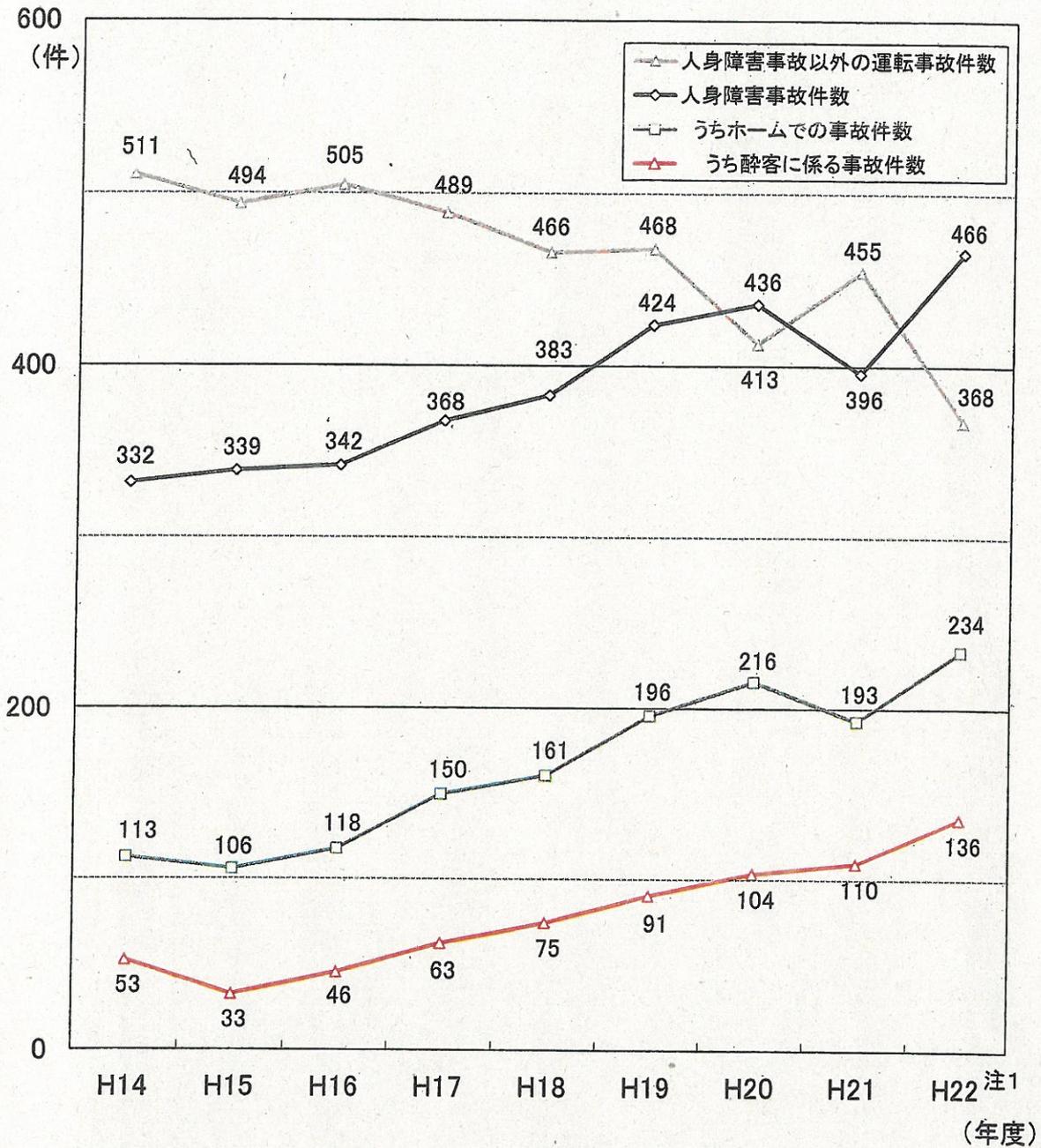
- ・経営状況が厳しく、多額の費用をかけて新たな設備の整備(維持、更新も含む)は不可能
- ・老朽化したトンネルや橋梁改修等の安全対策が最優先
- ・乗降客が少なく、列車の侵入速度も低いため、転落による事故の危険性は少ない
- ・路面電車の電停は、鉄道駅のホームに比べて段差が小さいため、転落の恐れがない

非常停止押しボタン等の整備計画について



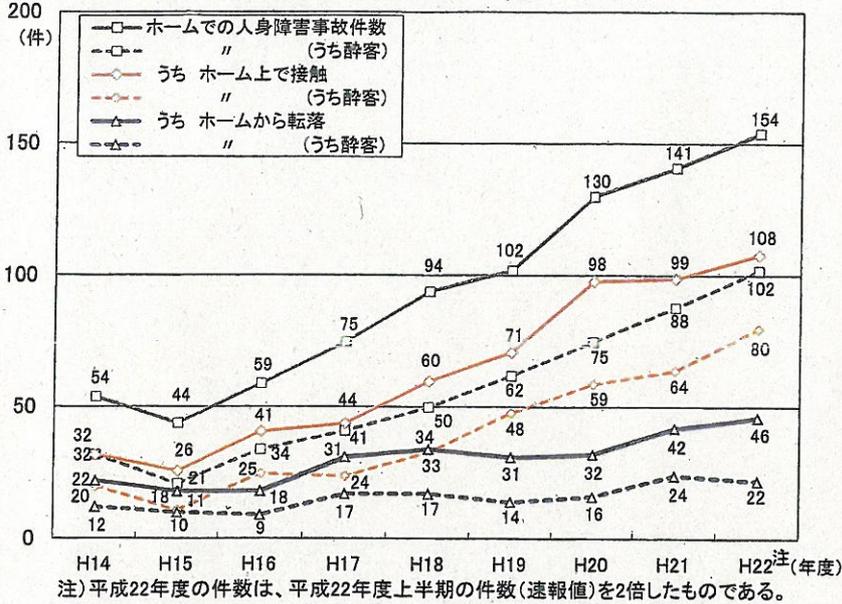
※整備対象駅(2, 074駅): プラットホームへの列車の進入速度が概ね60km/h、かつ、運転本数が1時間あたり概ね12本の列車が通過又は停車するプラットフォームを有する駅。

1. 人身障害事故件数等の推移

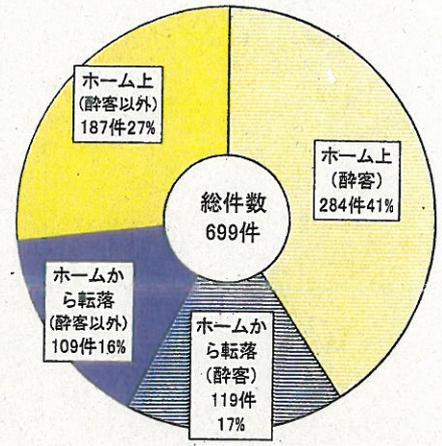


注1) 平成22年度の件数は、平成22年度上半期の件数(速報値)を2倍したものである。
 注2) 人身障害事故以外の運転事故とは、列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故及び物損事故をいう。
 注3) 自殺によるものは、人身障害事故としていない。

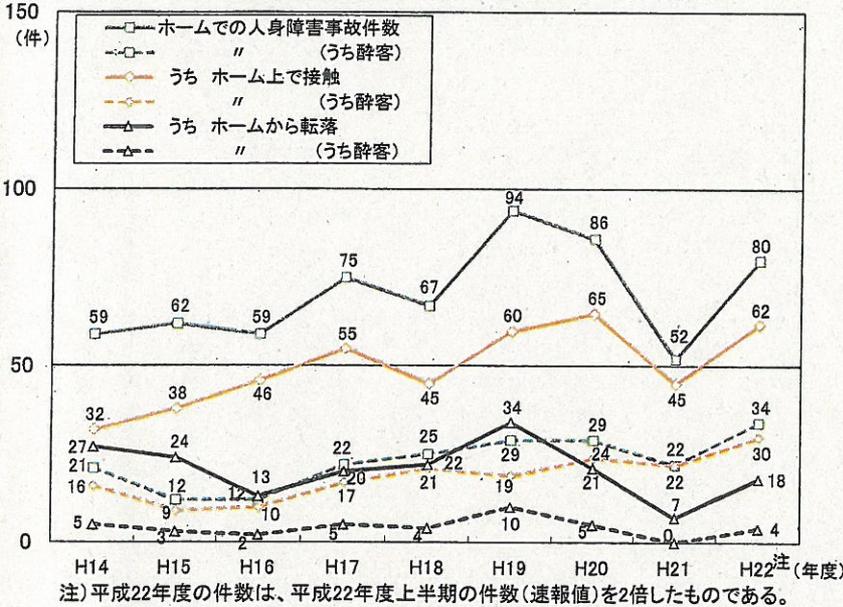
2-1. ホームでの人身障害事故件数の推移(1都3県)



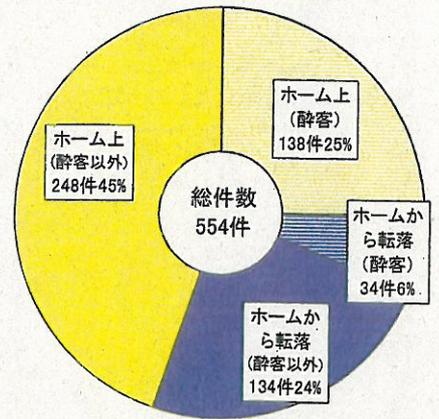
○1都3県(平成14~21年度)



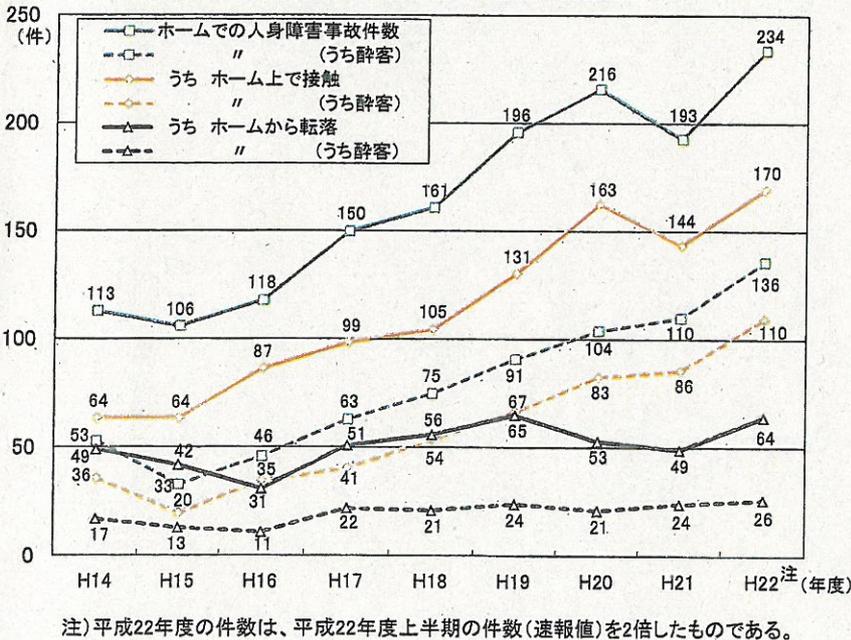
2-2. ホームでの人身障害事故件数の推移(1都3県以外)



○1都3県以外(平成14~21年度)



2-3. ホームでの人身障害事故件数の推移(全国)



○全国(平成14~21年度)

